



発行所 桐生タイムス社
桐生市東四丁目5-21番0277-46-2511(代)
〒376-8528 郵便振替00310-5-12247

購読料1部 110円税別
1カ月2,020円(本体1,872円)
●お申し込みは ハヤク ヨクヨム
☎0120-89-4946



あすの天気

最高気温 11.0度
最低気温 3.0度

詳しい天気は8面に

桐生タイムス

12月16日 月曜日

2019年(令和元年)
第20060号

スタッフ(正社員・パート)募集中

介護・看護・夜勤



住宅型有料老人ホーム
ヴィベル桐生東

お問い合わせ
☎0276-30-5733
担当:山田
桐生市東1-3-26



桐生倶楽部会館 大広間の出窓の修繕が完了

同会館が完成したのは、今からちょうど100年前の1919(大正8)年の12月。木造2階建て寄せ棟造りの瓦ぶき、スパニッシュ・コロニアル様式の意匠が特徴的な建物だ。2015年4月には桐生市の重要文化財に指定されている。同館を管理・運用する桐生倶楽部では創立100周年に向け、維持・保存に力を入れようと、17年に長期修繕計画委員会を設置。専門委員を招いて現況調査を

100年前の姿、取り戻す

桐生倶楽部会館(桐生市仲町二丁目)の2階大広間にある出窓の大窓と回転欄間の修繕が完了し、100年前に創建された当時の姿でよみがえった。12日には桐生倶楽部長期修繕計画委員会のメンバーが広場に集まり、格調高い窓を開け放ち、冬の風を迎え入れた。



修繕が終わり、窓が開いた桐生倶楽部会館2階大広間の出窓

風、再び

実施し、床下など緊急性の高い場所から修繕に取り組んできた。

2階大広間の北西に位置する出窓(幅1・8畳、高さ2畳)の大窓と回転欄間も、修繕対象の一つ。大窓は、ガラスを固定しているパテの劣化が激しく、木製の窓枠にも傷みが目立つなど危険性が認められ、「開かずの窓」だった。

また、大窓の上にある回転欄間は、観音開きの状態に改修されていた。

改修工事は7月から8月にかけて実施。建物の外側に足場を組み、ガラスやねじ、建具を外して解体。部材をメンテナンスし、中心部の縦横の建具を一新。ガラスをしっかりと固定した。

一部のガラスも新調され、室内には明るい光と風が届くようになった。

観音開きに改修されていた回転欄間も、創建時の縦型開閉のスタイルに戻した。

カーテン止め、かぎなどもすべて真ちゅう製の新品に。「館内で同じような構造を持つ部位を探し、そこを参照しながら、創建時の姿に戻した」と、工事を請け負った大澤木工の大澤直也さんは苦労を語る。

12日の修復を祝う会で、長期修繕計画委員長の村田勝俊さんは「桐生倶楽部会館はいわば『桐生のプリンス』。その顔ともいえるべき2階の大窓が修繕され風が入るようになった。建物の維持にもいい影響があるはず」と喜ぶ。同倶楽部理事長の森壽作さんは「次の100年に向けて修繕を続けていきたい。市民の理解を得ながら、国指定の重文を目指していければ」と抱負を述べていた。

東毛

桐生

完成から100年を迎えた桐生倶楽部会館（桐生市仲町）の2階正面にある出窓の修復・修繕が完了し、関係者にお披露目された。写真。

大広間出窓を修復 桐生倶楽部の「顔」

出窓は2階大広間に設置され、縦2.4、横1.8メートル。安全性を考慮し、これまで開けることができなかった。

倶楽部の長期修繕計画委員会が緊急性の高い箇所と位置付け、市教委文化財保護課の助言を受けながら7～8月に実施。使える部材は極力残しながら作業に当たり、

雨水が建物内に入り込まないよう「水切り」も施した。修復・修繕費は約70万円。



同委員会の村田勝俊委員長（64）は「会館の顔ともいえるべき大広間の出窓が修繕されて感慨深い。市の助言や委員の意見を聞き、計画的に会館の修繕を進めていきたい」と話した。